

愛知県立保育大学校 研究課程設立の経緯から閉校までの歴史 —現存する資料から—

The History of Aichi Prefectural College of Early Childhood Education: From the Establishment of Research Programs to Its Closure

— Based on Available Records —

小田 良枝 ODA Yoshie

1. はじめに（背景と目的）

2017（平成 29）年 3 月に告示された保育所保育指針 第 5 章 職員の資質向上 に「第 1 章から前章までに示された事項を踏まえ、保育所は、質の高い保育を展開するため、絶えず、一人一人の職員についての資質向上及び職員全体の専門性の向上を図るよう努めなければならない。」¹⁾と記載されている。この内容は、2008（平成 20）年に告示された保育所保育指針の第 7 章にも記載されており、保育士の資質向上の重要性を示し続けている。

保育士の現職研修には大きく分けて「園内研修」と「園外研修」がある。各園における「園内研修」、各市町村単位や事業所による年間計画に基づいた「園内研修」「園外研修」、厚生労働省から実施主体を都道府県又は都道府県知事の指定した研修実施機関へ実施委託した保育士等キャリアアップ研修、保育教材会社による外部研修などがある。

その他、現職保育士が専門的知識を学ぶ方法として、勤務しながら夜間大学または、通信教育で学ぶほか、「1999（平成 11）年の学校教育法施行規則の一部改訂に伴い、短期大学や専門学校を修了した現職保育士が大学院修士課程に入学することが可能になった。」²⁾により、市町村や自治体の派遣制度などを使用し、大学院で学び直すことが出来るようになった。しかし、大学院での学び直しの情報は、現職保育士に広く認識されていない現状がある。

2021（令和 3）年 11 月に厚生労働省家庭局保育課は、保育士の確保と資質向上の対応策として「保育士一人一人が地理的な事情や就労状況にとらわれない形での研修機会を確保するため、自治体が発行する研修のオンライン化や e ラーニング化への支援を行うことが重要」³⁾「次回の保育所保育指針の改定に際して、地域単位での資質向上に向けた取組に関する記載の拡充などを検討する」³⁾ ことなど明記している。今後、地域での保育士の資質向上のための具体的な対応策が必要とされる。

愛知県には、1978（昭和 53）年 4 月に開校し 2001（平成 13）年 3 月に閉校した愛知県立保育大学校があった。愛知県立保育大学校は、2 年間で保育士資格を取得する養成課程と保育士の資質向上に向けた取り組みとして、現職保育士が 3 か月（約 50 日間通学）学ぶ「研究課程」があった。

現在に至るまで、愛知県立保育大学校以外に 3 か月県内各市町村の現職保育士を一斉に

集めた「研究課程」及び保育士を目指す養成課程と「研究課程」が同時に学ぶ施設は全国にない。

本研究では、愛知県公文書館に保存されている資料、愛知県立保育大学校元教員、研究課程修了生から提供を受けた資料を基に愛知県立保育大学校の「研究課程」の設立の経緯から閉校までの歴史について調査したことをまとめ報告する。

2. 方法

調査方法は、資料収集による。

(1) 資料収集

- ①愛知県公文書館で県議会議事録など愛知県立保育大学校に関する資料を収集した。
- ②愛知県立保育大学校元職員、「研究課程」修了生に資料提供の依頼をした。

(2) 調査の期間

期間は、2022（令和4）年7月～2023（令和5）年3月。

(3) 研究の倫理的配慮

研究の目的・方法・結果の公表について口頭と文書で説明し、個人情報保護法を遵守することを約束して、承諾を得た。所属大学の名古屋芸術大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号 名自院学第121号）を得た。

3. 結果

(1) 愛知県立保育大学校の沿革

開校から閉校に至るまでを 準備期：開校まで 1966（昭和41）年～1978（昭和53）年3月、Ⅰ期：開校～5年 1978（昭和53）年4月～1983（昭和58）年3月、Ⅱ期：開校5年～10年 1983（昭和58）年4月～1988（昭和63）年3月、Ⅲ期：開校10年～20年 1988（昭和63）年4月～1998（平成10）年3月、Ⅳ期：閉校まで 1998（平成10）年4月～2001（平成13）年3月の5つの期間に分けた。

期間の区分は、愛知県立保育大学校記念誌「保育大学校5年のあゆみ」⁴⁾、「開校10周年記念誌 - 子どもたちの幸せを願って - 」⁵⁾、「20th Anniversary 愛知県立保育大学校20周年記念誌」⁶⁾を参考にした。尚、資料、記念誌など、日時の記載は和暦であったが、今回西暦（和暦）と統一した。また、「保母」の記載について、引用・参考文献以外を「保育士」とした。

準備期：開校まで 1966（昭和41）年～1978（昭和53）年3月

愛知県は、1966（昭和41）年に愛知県民生部児童家庭課に保育専門官1名を配置した。保母研修要綱を改訂、保母研修制度に取り組んだ。その後、1968（昭和43）年に、児童記録表記載要領を作成し、発達プロフィールによる測定結果を取り入れた様式を普及させた。

1971（昭和 46）年 5 月に、愛知県民生部 児童家庭課 技術吏員（指導保母）の役職が出来たことにより、指導保母を中心とした保育研修が体系的に行われるようになった。

1973（昭和 48）年に、保育カリキュラム作成の参考書として、「保育計画・指導計画作成の手引き」⁷⁾、保育所・幼稚園双方の幼児教育指針として「愛知の幼児教育」を作成する等、県下の保育の質、保母の資質向上を目的に保母研修等が充実し、継続的に実施されるようになった。現職保母士の研修を積み重ねる中で、一過性ではない保育の質の向上を目指す再教育の場の必要性が認識されるようになった。

その後、1974（昭和 49）年 1 月 15 日に愛知県民生部児童家庭課は、愛知県知事に対して「当面推進すべき保育行政上の諸問題について」⁸⁾ 意見具申している。この意見具申書の提出により、愛知県立保育大学校（以下 保育大）の設立が具体的に進んでいった。

愛知県児童福祉審議会 意見具申集（昭和 48 年度～昭和 54 年度）愛知県民生部児童家庭課（資料）⁸⁾によると 目次に「3 保母の養成と処遇の改善（1）県立保母養成施設を設置すること。（2）県立保母養成施設に保母研修センターを併置し、保母の研修を計画的に実施し、その資質の向上を図ること。（3）保育指導制度の確立を検討すること。」⁸⁾と記載がある

保母研修センターの設置のねらいは、「養護と教育を一体不可分のものとして行なう保育を充実するには、保育にあたる保育者が高い人間的な資質ならびに専門的な知識と技術が要請される専門職でなければならないことは論をまたない。…（中略）現在、県においては保母の資質の向上を図るため保母研修が実施されているが、さらに組織的、計画的な研修を実施するため、県立保母研修センターを実施することが望ましい。」⁸⁾とある。

また、保母研修センターの設置について、初代三好幸雄校長は、愛知県立保育大学校記念誌「保育大学校 5 年のあゆみ」⁴⁾の中で、「保母養成所建設の予算要求はその年は通りませんでした。翌 47 年私は民生部の企画補佐となり県地方計画の作成を担当しました。また 48 年に私は児童家庭課の副長となり、社会福祉 3 か年計画及び県児童福祉審議会の保育行政に関する意見具申の草案執筆を受けもちました。これら県地方計画、福祉 3 か年計画、県審議の意見具申の中には、いずれも県立保母養成所の建設計画が記述されて県の計画として定まり、まずその用地取得が進められることになりました。

保母養成所の候補地としては、岡崎の教育大跡地、大府の国立療養所などが話題にのぼりましたが、東海財務局から豊橋の国有地、予備士官学校跡地の話が持ちこまれ、当時東三河地区に保母養成所がなかったことや、豊橋市の積極的な要請もあって現在地に建設が決まりました。」⁴⁾と保育大設立に携わった経緯を具体的に述べている。

また国の動きとして、1970（昭和 45）年の厚生省告示第 352 号（厚生省告示第 328 号第 1 次改訂）⁹⁾により保母養成施設の指定基準が新設された。1971～1974（昭和 46～49）年は、第 2 次ベビーブームであり、子どもの出生数が多く、社会の変化として核家族化が進み、働く女性が増えてきたことや浦和¹⁰⁾によると就学前に幼児教育施設へ通う子どもの

割合が1970年代に増えた。その為、保育士不足、保育所不足もあり、保育士養成施設を増設する動きがあったことも影響していると考えられる。

意見具申集⁸⁾によると1973(昭和48)年当時、愛知県内の保母養成施設は、15か所あり、そのうち2か所は公立、私立は13か所であった。設置場所は、名古屋市内が7か所、尾張地区が6か所、西三河地区が2か所であった。東三河は0か所であった。

1974(昭和49)年2月定例県会議の愛知県児童福祉審議会を経て、愛知県社会福祉3か年計画の可決により、保育大の設立が加速していった。

その後、1974(昭和49)年6月に愛知県による保母養成所建設会議が設けられ、1976(昭和51)年10月に、「研究課程」も含む保育大の基本構想がまとめられた。「研究課程」は、特設課程として議会に要求された。その内容は、①研修中の現職保母の身分保障、②定員40人、③修行期間6か月、④週5日出校であった。1977(昭和52)年2月の議会修正可決後、①研修中の現職保母の身分保障はされるが、人選として将来現場で中心的役割を行う能力のある者 ②定員40人(前・中・後期各40人) ③修行期間は3か月と決まった⁸⁾。

1977(昭和52)年4月に、1年後にあたる1978(昭和53)年4月の開学に向け愛知県職員4名が配属された。保育大学校建設準備担当職員として配属された担当者は、愛知県民生部児童家庭課 主幹 鬼頭大一、係長 高木繁枝、技術吏員(指導保母)小沢志江子、梅村基の4名であった⁵⁾。

1977(昭和52)年8月19日より本館等建設工事が始まり、同年9月には、「保母養成所建設会議」から「愛知県立保育大学校企画運営委員会」が発足し、開学準備担当、企画運営委員として県内の大学、高校、保育関係者が協力した。保育大開学に必要な施設、備品、校章、学則、カリキュラム、具体的運営について規則案、通学整備としてバスルートの交渉など、多岐にわたる内容を考え、一から作り上げていった。

1977(昭和52)年10月14日に「愛知県立保育大学校条例」が公布され、のちの開学記念日となった。1978(昭和53)年2月6日に児童福祉法施行令第13条第1項第1号による保母養成所指定(厚生大臣)を受け、1978(昭和53)年3月15日に「愛知県立保育大学校学則規定」¹¹⁾が公布された。

I 期：開校～5年 1978(昭和53)年4月～1983(昭和58)年3月

開校から5年間は、大学校の仕組みを整えており創設期といえる。1978(昭和53)年4月1日に保育大の職員は、愛知県の辞令により配属された。4月12日に竣工式・入学式、「研究課程」第1回生の入学式は4月17日に挙行された。

授業日程は、資料に開校から5年間の表に示した。「研究課程」を実施する中で日程や場所等、開校からの5年間で修正されながら日程が定まってきたことが理解できる。日程は、入学式後、オリエンテーションが行われ、修了式のおおよそ1週間前に主題研究発表、エ

クスカーション（視察・小旅行）、修了式であった。また、開校1年目の1978（昭和53）年度7月に後援会が設立され、毎年総会が開かれるようになった。3年目からは3期の3月の修了式翌日に「保育研究会」が開催されるようになった。

カリキュラムは、開校時の1978（昭和53）年度は「組織論」、「社会福祉学」、「保育の基礎」、「保育学」、「保育指導法研究」、「保育学特殊演習」の6系列であったが、1981（昭和56）年度に「保育社会学」、「保育学」、「保育指導法研究」、「保育学特殊演習」の4系列に変更した。資料に、1981（昭和56）年度カリキュラムを表に示した。

また、「研究課程」と養成課程の交流として、1983（昭和56）年には、合同で避難訓練を行事として取り組んだ。

施設設備は、開校3年目の1980（昭和55）年9月19日に体育館兼講堂起工式が行われ、1981（昭和56）年4月8日に入学式及び体育館竣工披露が行われた。同年7月には自転車置き場が竣工された。1982（昭和57）年には、テニスコートなどの整備も行われた。

1983（昭和56）年度から研究紀要が発行されるようになり、2012（平成24）年度 閉校に至るまで毎年刊行された。

Ⅱ期：開校6～10年 1983（昭和58）年4月～1988（昭和63）年3月

1983（昭和58）年に5周年を迎え開学5周年記念式典が挙行され、「保育大学校5年のあゆみ」⁴⁾が発行された。

開校6～10年は、「研究課程」のカリキュラム試行錯誤の時期と言える。カリキュラムは5年間に3回変更した。1983（昭和58）年度は、系列「社会保育学」の教科目「保育行政」は「児童福祉」に変更した。1984（昭和59）年度は、系列「保育指導法研究」は「保育内容」に、「保育学特殊演習」は「保育研究」に変更した。教科目は、系列「保育学」に「保育環境論」、「保育方法論」が追加された。系列「保育内容」の教科目は、「教材研究」が「音楽リズム」と「造形」、「保育指導法」は、「フレーベル」、「モンテッソーリ」、「研修方法」、「保育内容・保育方法」「乳幼児理解の方法・集団論」、「保育指導実習」に細分化された。1986（昭和61）年度は、系列「保育内容」が「保育指導法研究」に変更し、系列も「教材研究」、「保育指導法」、「保育指導実習」と整理された。資料に、1983（昭和58）年度、1984（昭和59）年度、1986（昭和61）年度カリキュラムを表に示した。

また、「研究課程」と養成課程の交流を意図した行事「養研交流会」が行われるようになった。具体的内容として体育大会やお別れ会などがあった。

Ⅲ期：開校11～20年 1988（昭和63）年4月～1998（平成10）年3月

1988（昭和63）年に10周年を迎え開学10周年記念式典が挙行され、「10周年記念誌—子どもたちの幸せを願って」⁵⁾が発行されている。

開校11～20年は、「研究課程」の転換期と言える。1988（昭和63）年度から、2期（8

～11月)が中堅コースとして新設された。1期(4～7月)、3期(12～3月)は従来のコース(園長級コース)として2つのコースで運営されるようになった。教育方法は、講義、演習に整理されたが、教科目からそれまでの実習は、演習に含まれていた。

また、1991(平成3)年度厚生省告示第121号「保育士養成課程の見直し⁹⁾」により、保育の科目が「保育の本質・目的の理解に関する科目」、「保育の対象の理解に関する科目」、「保育の内容・方法の理解に関する科目」、「基礎技能」、「保育実習」5つの系列に整理された。その為、1994(平成6)年度の教科目を一部改訂しており、保育士養成課程に合わせた5つの系列の科目内容となっている。教科目「主題研究」は、系列の名称は変化しながらも開校当時から変わらず、96コマ充てられていた。資料に、1988(昭和63)年度、1994(平成6)年度カリキュラムを表に示した。「平成8年度 養成課程・研究課程合同ゼミナール」⁶⁾の記載があるが、その具体的な内容については不明である。また、1997(平成9年)度から、独自のシラバスの作成を始めている。

施設設備は、1993(平成5)年度に中庭・フェンスが造成され、1994(平成6)年度に図書室・視聴覚機材が充実した。

Ⅳ期：閉校へ 1998(平成10)年4月～2001(平成13)年3月

1998(平成10)年に20周年を迎えた。11月には「20th Anniversary 愛知県立保育大学校20周年記念誌」⁶⁾が発行されている。記念誌の中で、歴代校長の座談会有り、「研究課程」は全国でも誇れる重要な存在であり、「研究課程」の学生は養成課程の学生の手本という意識を伝えていたこと、保育大が子どもたちの発達を保証し、市町村と連携した実践研究を行う機関であることを共通理解していた。2代目近藤校長は、保育大の一番の特徴は「研究課程」「主題研究」だと述べている。また、5代目加藤校長は、保育大20年間の保育の歴史の中で、今後も地域の保育者たちの実践と保育大の理論の結びつきを大切にしていきたいとまとめていた。

閉校についての資料は、愛知県議会の記録などから探し出すことは出来なかった。唯一、豊橋市のホームページ「豊橋百科事典/豊橋市(toyohashi.lg.jp)」¹²⁾に、「保育大学校(廃止)」という項目がある。「愛知県立保育大学校は、昭和53(1978)年4月、児童福祉法による保母養成を目的とする厚生大臣指定(昭和53年2月6日)の学校として、豊橋市高師町北原(豊橋市西口町、旧陸軍豊橋第二予備士官学校跡地)に開校された。養成課程(2年)に加えて、昭和63(1988)年4月、研究課程(園長級コース・中堅コース、3か月)が新設された。少子化による保母需要減少のため、平成13(2001)年3月、廃止された。」¹²⁾と記載がある。

(2)「研究課程」の概要

「研究課程」の概要について、「昭和53年規則原本」に3月15日に公布された「愛知県

立保育大学校「学則」¹¹⁾を基にまとめた。

愛知県立保育大学校学則は、第一章 総則（第一条・第二条） 第二章 職員（第三条） 第三章 課程及び学生定員（第四条・第五条） 第四章 修業年限、学年、学期及び休業日（第六条～第八条） 第五章 教科目及び履修方法（第九条・第十条） 第六章 入学、休学、復学、退学及び除籍（第十一条～第二十一条） 第七章 卒業及び修了（第二十二～第二十四条） 第八章 賞罰（第二十五条・第二十六条） 第九章 入学検定等（第二十七条・第二十八条） 第十条 健康診断（第二十九条） 第十一条 補則（第三十条） 附則で構成されている。以下、「研究課程」に関する部分を資料にまとめた【表1】。

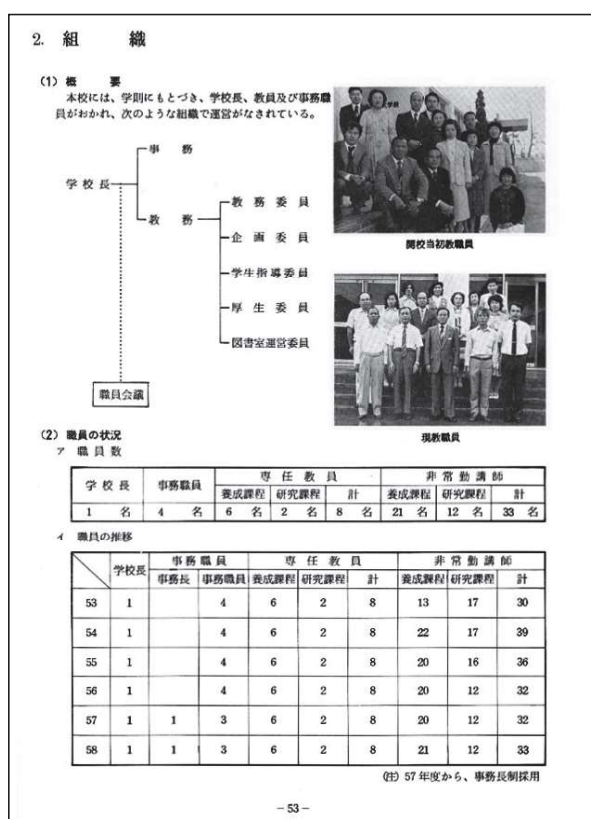
第一章 総則（第一条・第二条）

目的と基本方針が記載されている。この内容を基に、教育理念として「正しい児童観」、「豊かな人間性」、「新しい保育需要に対応できる能力」を備えた保育者養成を目標としている。更に「研究課程」については、概要の中で「現職保育者の再教育」と目的が改めて示されており、「児童福祉施設の指導的立場にある者の育成を基準におき、保育に必要な高度の専門的知識と技術を享受するとともに、職員への対応や施設運営の方法についても修得させ、保育の現場で指導能力が発揮できる指導者の育成を目的としている。」¹¹⁾とある。

第二章 職員（第三条）

職員の組織が記載されている。職員の組織は、学校長を中心として、事務と教務に分かれており、教務には専門委員として、それぞれ教務委員、企画委員、学生指導委員、厚生委員、図書室運営委員の役割があった。

職員の状況として、学校長1名、事務職員4名（うち開校5年目より1名事務長）、専任教員は、養成課程4名、研究課程2名、非常勤講師で構成されていた。「研究課程」担当の専任職員は2名であり、非常勤講師が、12～17人程対応していた。開学当時から閉校までこの体制は変わらなかった【図1】。



【図1】 職員組織

第三章 課程及び学生定員（第四条・第五条）

②学生定員及び修業年限

1年3期にわかれ、それぞれ定員40名、120名の定員である。修業期限は、3か月である。在学生は、愛知県内の尾張、西三河、東三河全域から派遣されているが、尾張地域からの学生が毎回半分程占めていた⁵⁾。名古屋市公立保育士は派遣されなかった。市内に保育大がある豊橋市公立保育士は、1997（平成9）年度60回生、1998（平成10）年度63回生、1999（平成11）年度66回生、2000（平成12）年度69回生に1名ずつ派遣された。

第四章 修業年限、学年、学期及び休業日（第六条～第八条）

各学期の期間は、1期が4月15日から7月15日まで、2期は8月15日から11月15日まで、3期は12月1日から翌年3月20日までの各3か月であった。

休業日は、日曜日、国民の休日に関する法律に規定する休日、開学記念日、冬期休業日として、12月21日から1月10日まで、他に、学校長が必要があると認めるときは、休業日に授業を行い、臨時休業日を定めることが出来るとある。

第五章 教科目及び履修方法

（第九条・第十条）

教科目及び時間数は、年度当初に学校長が定めた大学校独自のカリキュラムであったことは学則による。

また、研究課程の特例として、「…原則として試験は行わない。」と記載がある¹³⁾。右に1978（昭和53）年、開校初年度のカリキュラムを示す【表1】。カリキュラムは、その後、時代や社会、保育士養成課程見直しの経緯などに合わせて変化した。

【表1】1978（昭和53）年度カリキュラム

系列	教科目	形態及び時間数			
		講義	演習	実習	計
組織論	マネージメント理論	20			60
	スーパービジョン理論		20		
	現代社会家庭論	20			
社会福祉学	社会福祉	20			40
	保育行政	20			
保育の基礎	保育原理	20			40
	保育心理学		20		
保育学	乳幼児保育方法論		20		40
	障害児保育方法論		20		
保育指導法研究	保育指導法		20		76
	教材研究		40		
	保育指導実習			16	
保育学特殊演習	主題研究		96		96
合計		352			

教務委員は4名任命されており、所掌任務は、①教育課程及び時間割の編成 ②非常勤講師の先行 ③実習の企画運営 ④試験の実施 ⑤補講、集中講義等の企画運営 を担当していた。教科目の担当は、教務委員が担っていたと考えることが出来る。

第六章 入学、休学、復学、退学及び除籍（第十一条～第二十一条）

入学資格は、保育士資格と共に県内の社会福祉事業に2年以上従事することであった。

必要な提出書類は、入学願書の他、在籍する各市町村の任命権者の推薦書、保母資格証明書の写しが必要であり、書類審査により選考された。入学手続きには、誓約書が必要であった。

第七章 卒業及び修了（第二十二條～第二十四條）

修了認定は、出席の状況及び研究報告である「主題研究」の提出が必要であった。また、修了を認定されたものには、修了証書が授与された。

第九章 入学検定等（第二十七條・第二十八條）

入学検定料、入学金及び授業料は徴収しないと記載があり、愛知県または市町村の派遣研修として公費で賄われたと考えられる。

第十一条 補則（第三十條） 附則 で構成されている。

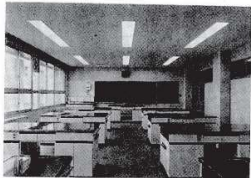
学則は知事の承認を得て学校長が定めること及び学則の施行日が記載されている。

(3) その他 施設内容

3. 施設内容

(1) 概要
本校は、豊橋市東南部の郊外にあり、保育所等各種社会福祉施設や養護学校、小学校にも隣接しており、教育、学習の場として恵まれている。

ア 敷地面積 18,928.90 m^2
イ 建築物 鉄筋コンクリート
2階建一部平屋建
延 3,172.59 m^2



(2) 建物の状況

部 門	名 称	室 数	面 積	備 考
管 理 棟	校 長 室	1	29.81 m^2	
	事 務 室	1	54.90	
	研 究 室	4	57.00	1室各 14.25 m^2
	講 師 室	1	29.81	
	医 務 室	1	16.06	
	会 議 室	1	54.90	
	図 書 室	1	95.16	
合同教室棟	印刷室・廊下等	—	328.37	ホール、更衣室等含む。
	合 同 教 室	1	167.56	
	音 楽 教 室	1	126.20	
	ピアノ指導室	2	31.92	1室各 15.96 m^2
	ピアノ練習室	8	64.90	1室 9.46 m^2 、7室各 7.92 m^2
教 室 棟	自習室・器具庫等	—	261.93	機械室、ボイラー室等含む。
	教 室	3	220.99	1室 74.91 m^2 、1室 73.87 m^2 、1室 72.21 m^2
	預 備 室	3	109.43	1室 36.39 m^2 、2室各 36.52 m^2
	小児保健室	1	98.05	
	栄養実習室	1	98.98	
	絵画工作室	1	99.23	
	倉庫・廊下等	—	354.80	ホール等含む。
体育館等	体育館床部屋	1	789.61	放送室、控室、更衣室、シャワー室等含む。
	ク ラ ブ 室	1	20.25	
	和 室	1	20.25	10畳
	渡り廊下	—	42.48	

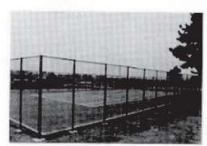
(3) 施設設備の推移

名 称	工事費	備 考
53 管理棟及び教室棟	238,111	53年3月竣工
54		
55 体育館等	112,429	56年3月竣工
56 自転車置場	490	56年7月竣工
57 テニスコート等	6,000	
58		



(3) 平面図

ア 全体図

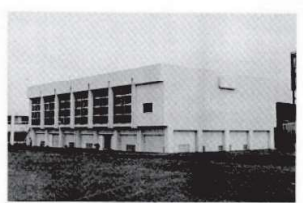



イ 校舎平面図

① 1 階



② 2 階

— 54 —
— 55 —

【図2】施設内容₄

施設は、鉄筋コンクリートの2階建（一部平屋建）であり、玄関を入ると右側が管理棟になっており、事務室、校長室他医務室、研究室等がある。左側には、図書館がある。廊下を進むと1階には、小児保健室、栄養実習室、絵画工作室があり、渡り廊下を通して和室、体育館兼講堂がある。2階には、洗面所向かいの階段を上がると、右手側に音楽教室とピアノレッスン室がある。左側の講義室1は「研究課程」の教室で、講義室2、講義室3が養成課程の教室であった【図2】。

4. 考察

(1) 愛知県立保育大学校の開校から閉校までのあゆみ

保育大の開校は、1973（昭和48）年度意見具申集⁸⁾がきっかけで急速に設置されたことが明らかになった。愛知県が、現職保育士の資質向上を目指し、県下一斉に現職保育士が身分保障されたまま学び合う機関を作りあげたことは、当時としては勿論、現在の社会状況や保育士の現状を考慮しても価値のある「研究課程」であったといえる。保育大は、開校3年目の1982（昭和55）年度からは「保育研究会」を開催し、研究課程修了生に対しても研究発表の場となった。1983（昭和56）年度以降、「研究紀要」を発行しており教職員も自己研鑽を続け、開校5年、10年、20年の節目に記念誌を発行し、大学校としての在り方を見つめ直していたことも明らかになった。

今回、閉校に関しては、閉校の理由が示されている明らかな資料は見当たらなかった。「保育学研究」（1992～1998年）の「1. 保育の現況」「3. 保育者養成の姿」によると、1992～1998（平成4～10）年の間は、全国の幼稚園、保育所が減少傾向であり、保育士余剰時代であり、保育士の就職が厳しい状況であったことが記載されている。また、養成校も短期大学から4年生大学への移行期であることが記されていた^{19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26)}。このことも閉校の一因と考えられるが、今後、元教員への調査などから実態を明らかにしていきたい。

(2) 「研究課程」の特徴

「研究課程」の特徴として、①研修中の現職保育士の身分保障及び人選、定員と修行期間②教科目「主題研修」、③授業内容「エクスカージョン」、「養成課程との交流」がある。

①愛知県から派遣要請を各市町村が受け、現職保育士として勤務しながら「研究課程」に通う仕組みは、各市町村から選ばれたリーダー的役割を担う保育士が意欲的に研修を受け、学んだ知識を各市町村へ広める効果があったと考える。40人という定員は、当時1クラスの人数として適切な人数であり、全員と関わる事が出来る人数である。そして、3期あることにより毎年120人修学出来る画期的なシステムであったと理解した。

3期の日程は、1期は入学式が保育園の入園式、慣らし保育終了後の4月中旬に行われ、夏期休暇や夏休みが始まる7月中旬修了式、2期はお盆休み後の8月下旬入学式、11月中

旬修了式、3期は生活発表会（音楽会、お遊戯会など）後の12月初旬入学式、卒園式前の3月中旬修了式という日程で行われていた。3期とも、保育園の行事等と出来る限り重ならないように工夫された日程となっていた。その為、現職保育士として勤務しながら、園行事に携わり出勤することが出来たと考える。

②教科目については、特に開校から10年間は時代や養成課程の履修に合わせ、保育現場が求めている内容も考慮しながら繰り返し修正をしていることが明らかになった。しかし、1994（平成6年）度以降のカリキュラムを探し出すことは出来なかった。また、教科目の「主題研究」に一貫して96コマの時間を確保していたことは、「研究課程」の学生自身が自分の保育観など文字化し、論理的に保育を考え実践的研究者として保育士の資質向上を目指しており、「研究課程」の修了認定の役割も担っていた。

③授業内容の特徴は、「エクスカージョン」と呼ばれる1泊2日の視察・小旅行と「養成課程との交流」があった。「エクスカージョン」は、児童福祉施設や文化財をめぐる保育士の見聞を広げるとともに学生、教員の交流を兼ねていたと考えられる。また、「養成課程との交流」は、養成課程の学生に、保育士としての在り方や姿勢を見本として示してほしいという教員の願いや「研究課程」の学生から、養成課程の学生へのキャリア支援ではないかと考えられた。

(3) 「研究課程」の現職保育士再教育の効果

「研究課程」は、県内の各市町村のリーダー的保育士40人が同じクラスの学生となり、最新の保育行政を学び、専門知識を学ぶとともに、研究の手法を学び、自分の保育を見つめ直す「主題研究」に取り組む一連の修学体系があった。開校3年目からは、保育研究会も開催されるようになり、修了後も現職保育士として保育の質向上の為に自分たちで学び続けるきっかけになることをも十分踏まえた「研究課程」であったと考えられた。

しかし、「研究課程」は愛知県の派遣研修であり、公費で賄われていた。全国唯一の「研究課程」の仕組みを継続するためには、国の少子化や保育士需要の変化など社会情勢の影響や行政の決定に委ねられることも多くあったと考えられる。

5. まとめと今後の課題

本研究では 愛知県公文書館による資料、保育大の資料、研究紀要等から、「研究課程」の設立の経緯から閉校までの歴史について調査し、その内容を具体的に明らかにすることを目的とした。

「研究課程」は、現職保育士の資質向上を目指し、保育士の専門性を活かした研修機関であった。国や県の保育情勢や最新の保育理論に合わせ教科目等試行錯誤し、保育士資質向上を目指したことは理解できた。しかし、今回殆ど資料の事実を並べ記載するのみの内容となってしまったことを反省する。

今後の課題として、「研究課程」の教科目の内容や研修体系の詳細を明らかにするとともに「研究課程」の特徴的授業であった「主題研究」の意図や意義、効果についても明らかにしていきたい。その為に、カリキュラムなど「研究課程」の具体的な教科目の内容や受講生の実態について、保育大元教員や研究課程修了生へのインタビューを含め、再検討することを今後の課題とする。

謝辞

愛知県立保育大学校の恩師である小沢志江子先生、適切なご助言を賜りました名古屋柳城女子大学 豊田和子教授に厚くお礼申し上げます。そして、本研究の調査にご理解とご協力いただきました元愛知県立保育大学校教員、研究課程修了生の皆様に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

引用・参考文献

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課：保育所保育指針解説書_ <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf> (最終閲覧日 2023. 2.23)
- 2) 橋川喜美代, 岩崎美智子：保育者の現職研修と大学院教育, 鳴門教育大学学校教育研究 紀要 20, 2005, 37-44
- 3) 厚生労働省子ども家庭局保育課：保育士の確保・資質向上等 令和3年11月4日, 000850461.pdf (mhlw.go.jp) (最終閲覧日 2023. 3.11)
- 4) 保育大学校5年のあゆみ：昭和58年10月, 66, 愛知県立保育大学校, 協力 愛知県立保育大学校後援会
- 5) 開校10周年記念誌 ―子どもたちの幸せを願って―：昭和63年10月, 97, 愛知県立保育大学校, 協力 愛知県立保育大学校後援会
- 6) 20th Anniversary 愛知県立保育大学校20周年記念誌：平成10年11月1日, 71, 愛知県立保育大学校・愛知県立保育大学校後援会
- 7) 愛知県民生部児童家庭課 編：保育計画・指導計画作成の手引(別表), 愛知県民生部児童家庭課, 昭和50年3月, 52, 愛知県社会福祉協議会
- 8) 愛知県児童福祉審議会 意見具申集(昭和48年度～昭和54年度)：愛知県民生部児童家庭課
- 9) 厚生労働省：第1回保育士養成課程検討会 平成21年11月16日 資料4 保育士養成課程見直しの経過(<5461726F2D81798E9197BF8253817A89DB92F68CA992BC82B582CC8C6F88DC> (mhlw.go.jp)、) (最終閲覧日 2023. 3.17)
- 10) 浦辺史：現代の保育問題と幼児教育, 風媒社, 愛知県, 1972, 186,
- 11) 愛知県：昭和53年 規則原本 愛知県立保育大学校学則の制定について

- 12) 豊橋百科事典／豊橋市 (toyohashi.lg.jp) (最終閲覧日 2023. 3.11)
- 13) 愛知県立保育大学校 昭和 61 年度 学生便覧, 愛知県立保育大学校, 24
- 14) 西頭三雄児、河合澄子、日比野雅彦、西川富美子：〈特集〉現職教育への提言 ―保育大学校における「主題研究」を手がかりとして―, 愛知県立保育大学校 研究紀要 第 20 号 (平成 12 年度) 23-60
- 15) 河合澄子：研究課程 15 年のあゆみと将来の展望, 愛知県立保育大学校 研究紀要 第 13 号 (平成 5 年度), 55-66
- 16) 愛知県立保育大学校要覧 昭和 53 年～ 63 年, 愛知県立保育大学校
- 17) 厚生労働省：保育士などキャリアアップ研修の実施について (保育士等キャリアアップ研修ガイドライン) 平成 29 年 4 月 1 日 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知／令和元年 6 月 24 日一部改正) tuuti.pdf (mhlw.go.jp) (最終閲覧日 2023. 3.28)
- 18) 奥泉敦司, 小田倉泉, 首藤敏元, 志村洋子. (2013). 現職保育士・幼稚園教諭の研修に関する一考察. 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 12, 99-106.
- 19) 日本保育学会 編：保育学研究 1992 年, 1. 保育の現況, 150-151
- 20) 日本保育学会 編：保育学研究 第 31 巻 1993 年, 1. 保育の現況, 150-151, 4. 保育者養成の姿, 188-191
- 21) 日本保育学会 編：保育学研究 第 32 巻 1994 年, 4. 保育者養成の姿, 261-264
- 22) 日本保育学会 編：保育学研究 第 33 巻 第 2 号 1995 年, 1. 保育の現況, 88-89, 4. 保育者養成の姿, 131-133
- 23) 日本保育学会 編：保育学研究 第 34 巻 第 2 号 1996 年, 1. 保育の現況, 82-83, 4. 保育者養成の姿, 129-132
- 24) 日本保育学会 編：保育学研究 第 35 巻 第 2 号 1997 年, 1. 保育の現況, 164-165, 4. 保育者養成の姿, 207-210
- 25) 日本保育学会 編：保育学研究 第 36 巻 第 2 号 1998 年, 1. 保育の現況, 100-101, 4. 保育者養成の姿, 140-143
- 26) 日本保育学会 編：保育学研究 第 37 巻 第 2 号 1999 年, 1. 保育の現況, 151-153, 4. 保育者養成の姿, 131-133
- 27) 厚生労働省：保育士の現状と主な取組 PowerPoint プレゼンテーション (mhlw.go.jp) 厚生労働省 令和 2 年 8 月 24 日 (最終閲覧日 2023. 3.11)
- 28) 厚生労働省：保育を取り巻く状況について 令和 3 年 5 月 26 日 厚生労働省子ども家庭局保育課 000784219.pdf (mhlw.go.jp) (最終閲覧日 2023. 2.17)
- 29) 愛知県現任保育士研修運営協議会ホームページ (愛知県現任保育士研修 |hoiku (gennin.wixsite.com)) (最終閲覧日 2023. 2.17)

資料

以下、「研究課程」に関わる部分のみ抜粋した。表は、筆者が比較のため整理作成した。

【表1】愛知県立保育大学校 学則

第一章 総則	(目的) 第一条 愛知県立保育大学校（以下「本校」という。）は、保育に関する高度の専門的司式及び技術を備えた資質の高い保母を養成することを目的とする。 (教育の基本方針) 第二条 本稿は、前条の目的を実現するために、正しい児童観、豊かな人間性及び新しい保育需要に対応できる能力を備えた保育者像をめざした教育を行う。									
第二章 職員	(職員) 第三条 本校に、次の職員を置く。 学校長 教員 事務職員 その他の職員									
第三章 課程及び学生定員	(課程) 第四条 本校に、次の課程をおく。 一 養成課程 二 研究課程 (学生定員) 第五条 学生定員は、次のとおりとする。 <table><tr><td>課程</td><td>入学定員</td><td>収容定員</td></tr><tr><td>養成課程</td><td>五十人</td><td>百人</td></tr><tr><td>研究課程</td><td>四十人</td><td>四十人</td></tr></table>	課程	入学定員	収容定員	養成課程	五十人	百人	研究課程	四十人	四十人
課程	入学定員	収容定員								
養成課程	五十人	百人								
研究課程	四十人	四十人								
第四章 修行年限、学年、学期及び休業日	(修業年限及び在学期間) 第六条 本校の修行年限は、養成課程にあつては二年、研究課程にあつては三月とする。 (学年及び学期) 第七条 3 研究課程は、三月を一学期とし、年三期とする 4 各期間は、次のとおりとする。 一期 四月十五日から七月十五日まで 二期 八月十五日から十一月十五日まで 三期 十二月一日から翌年三月二十日まで (休業日) 第八条 二 研究課程 イ 日曜日 ロ 国民の祝日に関する法律に規定する休日 ハ 開学記念日 ニ 冬期休業日 十二月二十一日から翌年一月十日まで 2 前項の規定にかかわらず、学校長は、必要があると認めるときは、同項の休業日に授業を行い、又は臨時に休業日を定めることができる。									
第五章	(教科目及び単位数) 第九条 3 教育課程の教科目及び時間数は、年度当初に学校長が定める。 第十条 (履修方法) 2 研究課程の学生は、学校長の定める教科目及び時間数を履修しなければならない。									
第六章 入学、1 休学、復学、退学及び除籍	(入学資格) 第十一条 本校の入学資格は、次の各号に定めるとおりとする。 二 研究課程 次のいずれにも該当するものであること。 イ 保母資格を有すること。 ロ 県内において社会福祉事業に二年以上従事していること。 (入学の願出) 第十二条 本校に入学しようとするものは、次に掲げる書類を学校長に提出しなければならない。 二 研究課程 イ 入学願書 ロ 任命権者の推薦書 ハ 保母資格証明書の写し (入学試験及び入学選考) 第十三条 3 研究課程に入学しようとするものに対しては、書類審査により選考する。 (入学の許可) 第十四条 学校長は、養成課程にあつては入学試験結果に基づき、研究課程にあつては選考結果に基づき、入学を許可する。 (入学手続) 第十五条 入学の許可を受けたものは、指定の期日までに、養成課程にあつては誓約書及び身元引受書を、研究課程にあつては誓約書を提出しなければならない。									
第七章 卒業及び修了	(修了認定) 第十二条 3 学校長は、研究課程の学生については、出席の状況及び学校長が定めるところにより提出された研究報告に基づき修了を認定する。 (卒業及び修了) 第十三条 2 学校長は、研究課程において、前条第二項の規定に基づき修了を認定された者に対して、修了証書を授与する。 (卒業及び修了)									
第九章 入学検定料など	(入学検定料) 第二十七条 入学検定料は、二千元とする。ただし、研究課程にあつては、徴収しない。 (入学金及び授業料) 第二十八条 入学金及び授業料は、徴収しない。									

第十一章 補則	(補則) 第三十条 この規則の実施に関し必要な事項は、知事の承認を得て学校長が定める。 附則 この規則は、昭和五十三年四月一日から施行する。
---------	---

【表2】1978（昭和53）年度 授業日程

第1回生	第2回生	第3回生
4月17日 入学式 4月18, 19日 オリエンテーション 4月20日 授業開始 7月4, 5日 エクスカーション (三河方面) 7月12, 13日 主題研究発表 7月13日 後援会設立総会 7月14日 修了式	8月17日 入学式 8月17, 18日 オリエンテーション 11月1, 2日 エクスカーション (尾張方面) 11月10日 主題研究発表 11月15日 修了式	12月5日 入学式 12月5, 6日 オリエンテーション 12月18～1月10日 冬休み 3月14, 15日 主題研究発表 3月16, 17日 エクスカーション (知多方面) 3月20日 修了式

【表3】1979（昭和54年度） 授業日程

第4回生	第5回生	第6回生
4月10日 入学式 4月16, 17日 オリエンテーション (豊橋勤労福祉会館) 4月18日 授業開始 6月3日 後援会総会 7月5, 6日 主題研究発表 7月11, 12日 エクスカーション (三河方面) 7月13日 修了式	8月21日 入学式 8月30, 31日 主題研究 (三河ハイツ) 10月14日 開学記念日 11月5, 6日 主題研究発表 11月11, 12日 エクスカーション (尾張方面) 11月15日 修了式	12月4日 入学式 12月13, 14日 主題研究 (県立青年の家) 12月21～1月10日 冬休み 3月10, 11日 主題研究発表 3月12, 13日 エクスカーション (知多方面) 3月17日 修了式

【表4】1980（昭和55）年度 授業日程

第7回生	第8回生	第9回生
4月15日 入学式 5月1, 2日 主題研修 (県立青年の家) 6月8日 後援会総会 7月3, 4日 主題研究発表 7月8, 9日 エクスカーション (三河方面) 7月10日 修了式	8月19日 入学式 10月14日 開学記念日 11月7～11日 主題研究発表 11月12, 13日 エクスカーション (尾張方面) 11月14日 修了式	12月2日 入学式 12月21～1月6日 冬休み 3月6～9日 主題研究発表 3月10, 11日 エクスカーション (知多方面) 3月13日 修了式 3月14日 保育研究会

【表5】1981（昭和56）年度 授業日程

第10回生	第11回生	第12回生
4月17日 入学式 5月22日 避難訓練 6月13日 後援会総会 7月3, 4日 主題研究発表 7月9日 常陸宮妃殿下御来校 7月10, 11日 エクスカーション (尾張方面) 7月15日 修了式	8月18日 入学式 10月14日 開学記念日 11月5, 6日 主題研究発表 11月10, 11日 エクスカーション (尾張方面) 11月13日 修了式	12月1日 入学式 12月21～1月6日 冬休み 2月25, 26日 主題研究発表 3月9, 10日 エクスカーション (知多方面) 3月12日 修了式 3月20日 保育研究会

【表6】1982（昭和57）年度 授業日程

第13回生	第14回生	第15回生
4月21日 入学式 6月5日 後援会総会 7月9日 主題研究発表 7月13, 14日 エクスカーション (三河方面) 7月15日 修了式	8月17日 入学式 10月14日 開学記念日 11月8日 主題研究発表 11月12, 13日 エクスカーション (尾張方面) 11月12日 修了式	12月1日 入学式 12月21～1月6日 冬休み 3月7日 主題研究発表 3月10, 11日 エクスカーション (知多方面) 3月〇日 修了式 3月13日 保育研究会

【表7】1981（昭和56）年度 カリキュラム

系列	教科目	時間数			
		講義	演習	実習	計
保育社会学	スーパービジョン理論	20			64
	現代社会家庭論	20			
	社会福祉	10			
	保育行政	14			
保育学	保育原理	20			80
	保育心理学		20		
	乳幼児保育方法論		20		
	障害児保育方法論		20		
保育指導法研究	教材研究		24		112
	保育指導法		72		
	保育指導実習			16	
保育学 特殊演習	主題研究		96		96
合計		352			

【表8】1983（昭和58）年度 カリキュラム

系列	教科目	時間数			
		講義	演習	実習	計
保育社会学	スーパービジョン理論	20			20
	現代社会家庭論	20			20
	社会福祉	10			10
	児童福祉	18			18
保育学	保育原理	16			16
	保育心理学		20		20
	乳幼児保育方法論		20		20
	障害児保育方法論		20		20
保育指導法研究	教材研究		24		24
	保育指導法		72		72
	保育指導実習			16	16
保育学 特殊演習	主題研究		96		96
合計		352			

【表9】1984（昭和59）年度 カリキュラム

系列	教科目		時間数			
			講義	演習	実習	計
保育社会学	スーパービジョン理論		20			68
	現代社会家庭論		20			
	社会福祉		10			
	児童福祉		18			
保育学	保育原理		16			88
	保育心理学			20		
	乳幼児保育方法論			20		
	障害児保育方法論			20		
	保育環境論		4			
	保育方法論		8			
保育内容	教材研究	音楽リズム		12		100
		造形		12		
	保育指導法	フレーベル		4		
		モンテッソーリー		8		
		研修方法		8		
		保育内容・保育方法		20		
		乳幼児理解の方法・集団論		20		
		保育指導実習	保育所・幼稚園等見学			
保育研究		主題研究		96		96
合計						352

【表10】1986（昭和61）年度 カリキュラム

系列	教科目	時間数			
		講義	演習	実習	計
保育社会学	スーパービジョン理論	20			68
	現代社会家庭論	20			
	社会福祉	10			
	児童福祉	18			
保育学	保育原理	16			88
	保育心理学		20		
	乳幼児保育方法論		20		
	障害児保育方法論		20		
	保育環境論	4			
	保育方法論	8			
保育指導法研究	教材研究		24		100
	保育指導法		60		
	保育指導実習			16	
保育研究	主題研究		96		96
合計					352

【表11】1988（昭和63）年度 園長級コース カリキュラム

系列	教科目	時間数		
		講義	演習	計
保育社会学	児童福祉	16		84
	社会福祉	12		
	現代社会家庭論	20		
	スーパービジョン理論	12	8	
	保育経営管理論	16		
保育学	保育原理	16		88
	保育思想概論	12		
	保育心理学	16		
	小児精神病理	16		
	カウンセリング	8		
	現代保育方法論	8		
	乳幼児保育方法論	8		
保育内容	保育計画		16	40
	保育方法		16	
	社会福祉施設見学		8	
保育研究	主題研究		96	96
その他	特別講義	4		4
合計		172	176	348

【表12】1988（昭和63）年度 中堅コース カリキュラム

系列	教科目	時間数		
		講義	演習	計
保育社会学	児童福祉	16		20
	社会福祉	4		
保育学	保育原理	16		84
	乳幼児心理学	20		
	小児保健	16		
	乳児保育実践	8	8	
	障害児保育実践	8	8	
保育内容	保育内容総論	20		116
	保育内容Ⅰ		16	
	保育内容Ⅱ		48	
	保育内容Ⅲ		32	
保育指導法	指導計画		16	24
	幼児教育施設見学		8	
保育研究	主題研究		96	96
その他	特別講義	8		8
合計		116	232	348

【表 13】 1994（平成 6）年度 園長級コース カリキュラム（案）

系列	教科目	時間数	
		時間	計
保育の本質・目的の理解に関する科目	社会福祉	12	92
	児童福祉	16	
	保育原理	12	
	保育思想概論	20	
	保育行政	4	
	保育所運営管理論	12	
	現代社会家庭論	16	
保育の対象の理解に関する科目	発達心理学	16	32
	小児保健	16	
保育の内容・方法の理解に関する科目	保育計画	14	122
	保育方法論	36	
	乳児保育方法論	12	
	障害児保育方法論	20	
	スーパービジョン理論	20	
	対人援助技術論	20	
見学	社会福祉施設見学	8	8
保育研究	主題研究	96	96
その他	特別講義	6	6
合計		356	356

【表 14】 1994（平成 6）年度 中堅コース カリキュラム（案）

※コース別受講 ①乳児保育コース ②障害児保育コース

系列	教科目	時間数	
		時間	計
保育の本質・目的の理解に関する科目	児童福祉	22	46
	保育原理	16	
	保育行政	8	
保育の対象の理解に関する科目	発達心理学	18	36
	小児保健	18	
保育の内容・方法の理解に関する科目	指導計画	16	98
	乳児保育概論	16	
	障害児保育概論	16	
	保育内容概論	20	
	乳児保育内容 ※①のみ	30	
	障害児保育内容 ※②のみ	30	
実習	乳児保育実習 ※①のみ	80	80
	場外児保育実習 ※②のみ	80	
保育研究	主題研究	96	96
合計		356	356